年間授業計画　新様式例

立川　　高等学校 令和７年度　　社会科　科目　世界史探究

教　科：　社会科　　科　目：　世界史探究　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　4 学年　A　組～　B　組

教科担当者：　（A組：竹下　）　（B組：竹下　）

使用教科書：　（　実教出版　世界史探究　）

教科　社会科　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】　世界の歴史についての理解と認識を深めて、現代に生きる市民としての自覚と資質を養う。

【思考力、判断力、表現力等】　古代から現代までの幅広い歴史を取り上げることで興味関心を高めるとともに、学んだ知識から現代世界の課題を歴史的な視点から理解できるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】　各時代の社会背景を考察し、価値観を柔軟に受容し、自己の意見を持つ力を養う。

科目　世界史探究　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史についての理解と認識を深めて、現代に生きる市民としての自覚と資質を養う。	古代から現代までの幅広い歴史を取り上げることで興味関心を高めるとともに、学んだ知識から現代世界の課題を歴史的な視点から理解できるようにする。	各時代の社会背景を考察し、価値観を柔軟に受容し、自己の意見を持つ力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	単元名　諸地域の歴史的特質の形成 【知識及び技能】 古代から中世までの世界史を整理し、各地域の関わりが理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 中世までの知識を基に、各時代の社会背景を考察し、現代との比較に繋げることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追及できる。	１編　古代文明と各地域の各地域の形成 1　世界の古代文明 2　ギリシア文明 3　ローマ帝国 4　中世ヨーロッパ 5　インドの形成 6　イスラーム圏の拡大 ・一人一台端末を使用した調べ学習、レポートの作成	【知識・技能】 古代のユーラシア大陸に関わる事柄について、基礎的な知識・技能を身に付け、活用することができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して科学的・論理的に考え、既存の知識・経験、他者の意見等を取り入れながら考えを深め、工夫して自分の考えを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題に対して興味・関心をもち、自ら考え、継続的に取り組んでいる。	○	○	○	24
	定期考査			○	○		1
2学期	単元名　諸地域の交流と再編・結合と変容 【知識及び技能】 中世から近世・近代のヨーロッパを整理し、日本史との関わりが理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 近代ヨーロッパの知識を基に、各地域の社会背景を考察し、現代との比較に繋げることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追及できる。	２編　中世のヨーロッパ世界とアジア 1　大交易時代 2　アジア諸地域の帝国 ３編　近代の世界と日本 1　主権国家体制の形成 2　大西洋革命時代 3　国民国家の形成 4　アフリカとインドの民族運動 5　東アジアの国際関係の再編 ・一人一台端末を使用した調べ学習、レポートの作成	【知識・技能】 ヨーロッパの交易圏の広がりと日本史に関わる事柄について、基礎的な知識・技能を身に付け、活用することができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して科学的・論理的に考え、既存の知識・経験、他者の意見等を取り入れながら考えを深め、工夫して自分の考えを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題に対して興味・関心をもち、自ら考え、継続的に取り組んでいる。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		2
3学期	単元名　地球世界の課題 【知識及び技能】 近代から現代までの世界史を整理し、日本史との関わりが理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 現代に繋がる知識を基に、各地域の社会背景を考察し、現代との比較に繋げることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追及できる。	４編　近現代の地域・世界と日本 1　戦間期の日本 2　冷戦と現代世界 3　世界経済の展開 4　科学技術の時代と知識基盤社会 ・一人一台端末を使用した調べ学習、レポートの作成	【知識・技能】 世界史と日本史に関わる事柄について、基礎的な知識・技能を身に付け、活用することができる。 【思考・判断・表現】 課題に対して科学的・論理的に考え、既存の知識・経験、他者の意見等を取り入れながら考えを深め、工夫して自分の考えを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 課題に対して興味・関心をもち、自ら考え、継続的に取り組んでいる。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
							合計 70